



日本医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野

岩部 真人

日本生化学会会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。2022年5月1日付で日本医科大学大学院医学研究科内分泌代謝・腎臓内科学分野大学院教授を拝命致しました岩部真人（いわぶまさと）と申します。この度は研究室紹介の機会を頂きましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

日本医科大学は、1876年に長谷川泰先生により創設された済生学舎を前身とし、医師の早期育成を目的として設立された創立140年を超えるわが国最古の私立医科大学です。これまでに多数の医師、医学者を輩出しており、その中には世界的な細菌学者である野口英世先生、小口病の発見者である小口忠太先生など現代の医学界に名を残す偉人も含まれています。1910年に現在の東京都文京区千駄木に付属病院が開院されて以来、キャンパスは千駄木にあります。

私が異動した際、日本医科大学では医学研究科専攻分野の改組により、内分泌糖尿病代謝内科学分野と腎臓内科学分野は合流し、新たに内分泌代謝・腎臓内科学分野としてリニューアルすることになりました。従来、内分泌学、代謝学、腎臓学は、ホルモンを中心にした全身の恒常性（体液の量・電解質・浸透圧・pH、血糖などの栄養素、血圧・血流、体温、成長、エネルギー代謝、性周期など）維持機構を明らかにする学問であり、これらの学問領域が融合されることによって、生命体をさらに統合的に広く深く理解することが可能となってきます。内分泌代謝・腎臓内科学分野は、「全身を診る診療科」を合言葉に、「恒常性（ホメオスタシス）を制御し健康長寿社会を実現する」ことを共通のミッションとして掲げ、教室員一丸となったone team体制であらゆる活動に臨んでおります。

特に研究においては、私の専門が代謝学であることもあり、そこから派生して現在は運動研究に注力しております。若者の研究離れが深刻化している時代において、少しでも多くの学生に実験に興味を抱いてもらえるよう分かりやすいテーマを教室の柱の一つにしたいという狙いもあり



教室のメンバーと付属病院のガーデンにて

ました。運動を数値化（見える化）することを目指した運動バイオマーカーの探索から、運動の作用メカニズムに基づく運動模倣薬の開発を目指すだけでなく、運動による認知機能改善メカニズム、運動によるがんの発症予防メカニズムの解明などなど、運動を基軸にした新たな研究テーマに教室員とともにチャレンジしております。まだまだ黎明期にある教室ですが、生化学会会員のプロのみなさまに「面白い！」と思って頂けるような成果が一日でも早く出せればと思っております。もし私達のチームに加わってみたいと思って下さる方がいらっしゃるようでしたら、是非とも気楽に声をかけて下さい（m-iwabu@nms.ac.jp）。一緒に未来の医療を創造しましょう！

さいごとなりますが、長年にわたって陰になり日向になり温かいご指導・ご支援を賜りました関係する全ての方にこの場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。日本生化学会の益々の発展に極めて微力ではございますが全力を尽くす所存でございます。引き続きご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしく願い申し上げます。